

学術団体名：特定非営利活動法人 グローバルビジネスリサーチセンター
 学術刊行物の名称：Annals of Business Administrative Science
 事業期間：平成28年度～平成32年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

Annals of Business Administrative Science (ABAS) 誌は、日本人研究者を中心とした編集体制で、日本発のオリジナルな経営学研究を対外的に発信する英文誌として、特定非営利活動法人グローバルビジネスリサーチセンター(GBRC)が法人設立と同時に、2002年にフリーアクセスの100%英文のオンライン・ジャーナルとして創刊した。日本の経営学研究、特に、日本企業、日本発の多国籍企業の研究は、当然のことながら国際的にみても高い質・量を維持していると自負する。しかし、欧米系のジャーナルの編集者、査読者は、自分たちの論理・概念でしか考えず、日本独特の論理や概念を学問として受け付けない。日本人研究者の論文であっても、欧米系のジャーナルに掲載されたものは、残念ながらオリジナルの論理・概念を提唱するものではなく、既存の欧米系の論理・概念を日本企業のデータで追試または検証した形にならざるをえない。こうした中で、2012年、創刊10周年にして、国際情報発信力強化を目指してABASを全面的にリニューアルし、日本の経営学系のジャーナルとしては初めて、EBSCOhost、ProQuestといった世界的学術誌データベース、さらにJ-STAGEへの収録・全文ダウンロード可を順次進めた。

さらにクリエイティブ・コモンズの「CC By」ライセンスを全コンテンツに適用し、オープンアクセス化を進めるために、APC (Article Processing Charge)を導入する計画を立てた。しかし、自然科学系と違って、研究室制度のない経済経営系では、APC導入で、大学院生やポスドク、研究費が少ない若手研究者には、大きな経済的負担を強いることになる。そのため、若手研究者のAPC相当分免除もしくは負担軽減のための取組として、既に定期開催しているABASコンファレンスを再設計し、日本の若手研究者の育成にも努めたい。

2 目標の達成状況

- APC (Article Processing Charge) を導入した。
- クリエイティブ・コモンズの「CC By」ライセンスを適用した。
- 就職活動をしている若手研究者からすると、投稿から掲載まで数年かかる海外ジャーナルはリスクが高い。そこで、ABASでは、J-STAGEの早期公開機能を導入し、投稿から早期公開までの期間を短縮するように編集・査読体制を強化した結果、2018年に投稿・早期公開された直近16本の論文の投稿から早期公開までの平均日数を43日間にまで短縮できた。
- 年に4回開催していたABASコンファレンスを再設計し、若手研究者のAPC支援措置としてABASコンファレンスでAPC全額免除・半額免除等を決める仕組みを作った。その結果、ABASコンファレンスは、本取組が始まった2016年は6回、2017年は8回、2018年は10月末時点で11回開催した。
- 論文投稿数は、本取組前の2015年は17本だったが、本取組が始まった2016年は33本、2017年は41本、2018年は10月末までで42本と急激に増えている。
- 論文掲載数は、APC導入前の2015年には25本だったが、APC導入で一時的に減少し、2016年に22本になった。その後は、2017年は25本、2018年は10月末までで既に20本となり、論文投稿数が急増していることもあり、目標50本達成に向けて明るい見通しを持っている。

・今後の計画

2018年に、クラリベイト・アナリティクスから、Web of Science の Emerging Sources Citation Index (ESCI)の選定プロセスにABASが挙がっている旨の連絡があった。今後は、Scopusへの収録申請、Directory of Open Access Journals (DOAJ)への収録申請を行う計画である。

